

令和6年12月1日現在の世帯数と人口

(千種区 18.18Km²)

学区名	世帯数	人 口			対前月増減	
		総数	男	女	世帯数	人口
1 千 種	6,046	9,487	4,766	4,721	9	25
2 千 石	4,294	6,989	3,493	3,496	15	18
3 内 山	5,955	8,168	4,391	3,777	△ 20	△ 15
4 大 和	3,689	6,719	3,332	3,387	△ 11	1
5 上 野	7,566	15,387	7,524	7,863	11	12
6 高 見	7,575	13,447	6,387	7,060	19	14
7 春 岡	7,343	11,242	5,967	5,275	2	9
8 田 代	11,422	21,973	10,522	11,451	26	61
9 東 山	10,435	19,008	9,282	9,726	0	1
10 見 付	4,601	8,449	4,256	4,193	6	△ 1
11 星 ケ 丘	3,635	6,864	3,049	3,815	1	△ 5
12 自 由 ケ 丘	3,561	7,094	3,217	3,877	5	△ 1
13 富 士 見 台	6,514	14,968	6,805	8,163	△ 5	△ 21
14 宮 根	3,825	7,896	3,639	4,257	0	0
15 千 代 田 橋	3,781	8,101	3,796	4,305	1	△ 21
千 種 区 計	90,242	165,792	80,426	85,366	59	77
R5.12.1	88,812	165,142	80,142	85,000	8	△ 55
対 前 年 比	1430	650	284	366	51	132
名 古 屋 市	1,176,642	2,332,369	1,144,766	1,187,603	632	121
愛 知 県 (R6.11.1)	3,371,640	7,465,813	3,717,553	3,748,260	3,013	563

前月中の増減内訳	自然動態			社会動態		
	出 生	死 亡	自然増減	転 入	転 出	社会増減
	76	138	△ 62	818	679	139

【参考】

国勢調査千種区人口				これまでの最大人口と最小人口(千種区)	
昭和60年	163,762	平成17年	153,118	最大人口	173,598 (昭和50年2月1日)
平成2年	156,478	平成22年	160,015	最小人口	146,727 (平成11年4月1日)
平成7年	148,847	平成27年	164,696		
平成12年	148,537	令和2年	165,245		

注) 学区別の世帯数と人口は、令和2年国勢調査結果の本市独自集計速報値であり、後日総務省から公表される数値と異なる場合があります。

名古屋市民の平均寿命

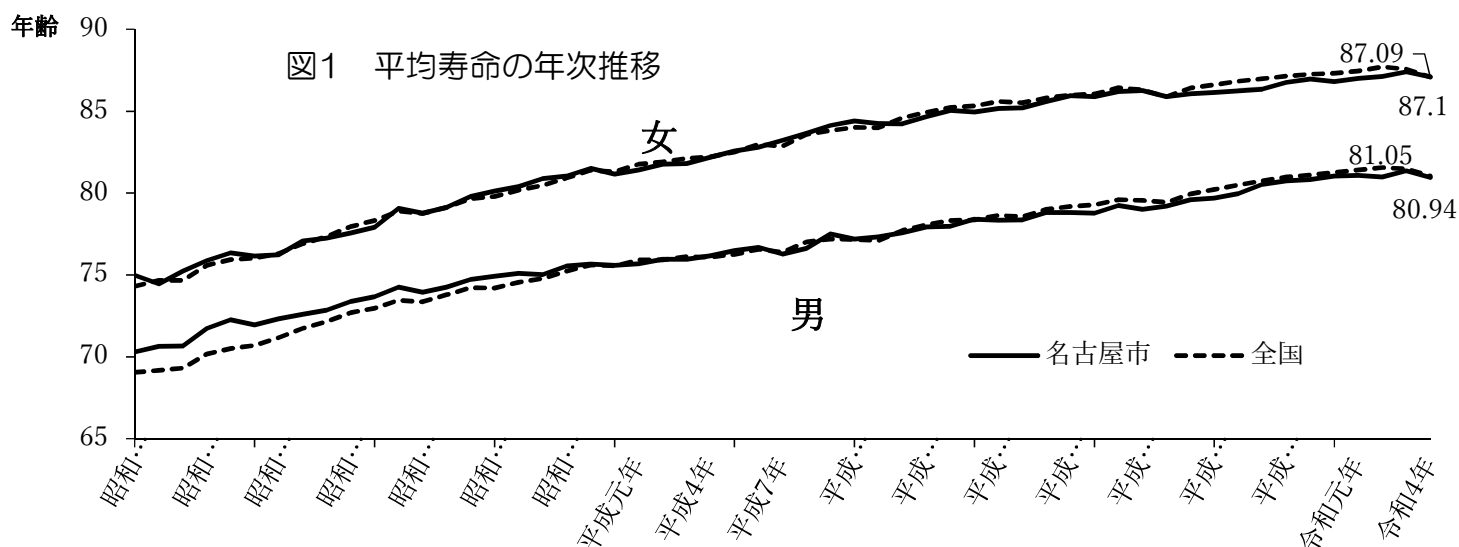
今回は、令和6年3月に公表された令和元年の名古屋市民の平均寿命について全国と比較しながら見ていきます。

名古屋市では、国とは別に毎年独自に平均寿命を算出しています。平均寿命とは、その年の死亡率が今後変わらないと仮定して、今後出生する人が何年生きるか推計したものです。

令和4年の全国の平均寿命は、男性が81.05年、女性が87.09年でした。前年と比較すると、男性は0.42年、女性は0.48年下回りました。男女の平均寿命の差は6.04年で、前年より0.06年減少しています。

令和4年の名古屋市の平均寿命は、男性が80.94年、女性が87.10年でした。前年と比較すると、男性は0.42年、女性は0.31年下回りました。男女の平均寿命の差は6.16年で、前年より0.11年広がっています。令和4年の名古屋市と全国の平均寿命を比較すると、男性は0.11年名古屋市が全国より下回り、女性は0.01年名古屋市が全国より上回っていることがわかります。

過去10年間、男女とも全年代において全国の平均余命を下回っていますが、令和4年において女性は0歳から40歳代、また90歳代以上が全国の平均余命を上回っていることが、名古屋市の女性の平均余命が全国を上回っていたことに影響を与えているものと考えられます。



【補足】

① 平均余命と平均寿命

「平均余命」とは、その年の死亡率が今後変わらないと仮定したときに、ある年齢に達した人が平均してその後何年生きられるか表したものです。「平均寿命」とは0歳における平均余命のことをいいます。

② 平均余命の伸び

ある死因で死亡することがなくなった場合、その死因によって死亡していた人は、その死亡年齢以後にほかの死因で死亡することになります。この結果、死亡時期が繰り越され、平均余命が延びることになります。この伸びは、その死因のために失われた平均余命としてみることができ、これによって各死因がどの程度平均余命に影響しているかを測ることができます。